

5月11日に洋光台エリア会議（第1回）を開催しました。その概要をお知らせします。

## ■洋光台エリア会議とは

洋光台エリア会議は、洋光台地域の良好な社会資本を有効活用し、価値を維持・向上させて、次世代に引き継ぎ、以下の(1)から(3)を実現することを目的として設置しました。これから、多世代近居、防災、駅前再編・景観形成、エネルギーマネジメント、その他、洋光台地域の価値を維持・向上させることに資する取り組みの検討を開始します。

- (1)地域の課題解決の担い手となる専門性を持った組織のプラットフォームの構築
- (2)複合的なテーマを扱うグループの形成や活動スキームの波及、新たな取組主体の参画などによるエリアの活性化
- (3)各主体の連携を連鎖的につなげること

洋光台エリア会議の構成員	
有識者	座長 小林重敬（東京都市大学都市生活学部教授、横浜国立大学名誉教授） 大江守之（慶應義塾大学総合政策学部教授） 中村文彦（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授）
洋光台まちづくり協議会	会長、副会長（公園・街路空間整備部会長）、 副会長（住環境整備部会長）、駅前・商空間整備部会長
神奈川県	県土整備局建築住宅部長、参事、住宅計画課長
横浜市	政策局政策部 政策担当部長、政策課 担当課長、 建築局企画部長、企画課長、磯子区総務部区政推進課長
UR都市機構 神奈川地域支社	住宅経営部長、ストック活用・ウェルフェアチームリーダー （事務局）団地マネージャー（洋光台エリア担当）

## ■洋光台エリア会議（第1回）概要

開催日時・場所	平成 24 年 5 月 11 日（金） 16：00～18：00 洋光台中央団地集会所
議事内容	(1)多世代近居ケーススタディ検討会とりまとめ（神奈川県） (2)洋光台エリア会議について（UR 都市機構） ①設置及び運営に関する要領(案) ②構成及び対象エリアの将来イメージ(案) ③H24 年度の取組内容(案) ④H24 年度の進め方(案) (3)横浜市「環境未来都市」計画の概要及び洋光台エリアのモデルプロジェクトへの位置づけ（横浜市） (4)住宅市街地等におけるエリアマネジメントとその担い手（小林座長） (5)意見交換

## 意見交換の概要

### H24 年度の取り組み内容（案）

- a) 洋光台駅前商店街への地域活動拠点の設置に向けた検討
- b) 地域北部における地域ケアプラザのランチ機能誘致の検討
- c) 地域が必要とする新たな移動手段（モビリティ）導入の検討
- d) 地域内住み替えシステム構築に向けた検討
- e) H25 年度以降の洋光台エリア会議の体制及び対象エリアの検討
- f) 中層住棟屋上等への太陽光パネル設置・エネルギー活用に向けた検討

※取り組み推進のために必要な洋光台エリアの基礎調査を実施

### <主な意見等>

#### 【決定事項】

- 会議名称は「洋光台エリア会議」に決定
- 会議の議事内容は共有し共通の情報発信資料として活用

#### 【継続検討事項】

- H24 年度の取り組みはテーマを限定せず、幅広く検討
- 交通は地域ニーズを把握し、移動手段（モビリティ）だけでなくいろいろな方策を検討
- 多世代近居  
住み替えニーズの把握が必要  
若い世代を呼び込むにはソフト・ハードの両方で魅力的にしていけることが必要  
100 坪宅地は若い世代には取得が難しい、土地利用の規制等を含めて検討が必要
- 駅前・施設の活性化  
コミュニティサロンの担い手はいるが、家賃が課題  
物販店を誘致してほしい
- 基礎調査の必要性  
まちづくりのために必要な基礎調査を若者、女性、子育て世帯、高齢者など幅広く実施  
アンケート、ヒアリングなど、いろいろな手法で調査  
数年毎に定期的に調査を行い、経年変化をフォローアップ

### H24 年度の進め方（案）

5 月 11 日 洋光台エリア会議（第 1 回）

夏～秋 地元を交えたワークショップの企画等

秋～冬 洋光台エリア会議（第 2 回）

- ・取り組み状況の中間報告
- ・基礎調査の内容（案）

2～3 月 洋光台エリア会議（第 3 回）

- ・H 24 年度の取り組みのまとめ
- ・H 25 年度の体制
- ・H 25 年度の取り組み内容

